

いぎいき男女共同参画

未来の子ども世代に

希望がもてる地域づくりを



男女共同参画週間講演会・第8回女性センター未来文化講演会が、先月24日に開催されました。飯山女性教育を考える会「アミカ」と託児グループひよこの会の活動発表があり、ノンフィクション作家の沖藤典子さんが「人生のターニングポイントをどう生きるか」と題して講演されました。講演会の要旨を掲載します。

遠くから鳴り響く鐘

女性問題の先達の丸岡秀子さんの母親入門の本の中に「女達は語り合う事によって自分の弱さを認めていこう」とある。エンパワーメントという言葉は、力をつけるというよりも、自分の弱さに気づき、自分で自分の人生を価値づけていくという心の動きが必要ではないか。丸岡さんの「女性問題は遠くから鳴り



△作家の沖藤典子さん

当時の親の介護

今は介護保険制度があるが、40年前の私の介護の時は、社会サービスが足りなかったために悲しみ、辛さが深まった。両親は北海道にいて母親が先に倒れた。寝たきりで亡くなった時、母は68歳、私は

28歳。東京で二人の子どもを抱えて共働きの生活の中の介護の経験が後に介護休業が職業継続に必要と思うきっかけになった。その後、父が一人になり私の所にやっってきた。父は、育爺(いくじい)となり孫に対して愛情ある優しい姿を見せてくれ今の私の夫に、いい影響を及ぼした。

介護による退職

父は同居して4年後にガンを発症し、わかつた時には末期だった。夫は単身赴任、私は職場で中間管理職として仕事に生きがいを感じていた頃だった。なかなか決心がつかないうちに病状が進み、私は疲れはて、子どもも疲れていく。そして37歳の時に会社を辞めた。転機に立っているという事を感じずにターニングポイントを超えていた。あれが人生の転機だったなというのは案外後から気づく。

自殺する男性が多い日本

戦後は家制度が廃止されたが、人々の意識の中では残った。戸主意識というのが

男の人の中に根強くあり、辛さを口に出すのは男の恥だと思ひ、男性を自殺に追い込む。自殺対策防止法もできたが、男性の自殺が多い日本の社会は異常だ。

長男と長男の嫁

長男は「長男なんだから」と兄弟に責められ、「長男の嫁だから夫の親を看るのは当たり前」と周りは言う。デートでも介護者の85%は女性。であり長男の嫁である。そして介護者の50%以上が60歳以上で老老介護である。

地域での活動

高齢期に人格変容を起こす人が出てくる。年を取ったら怒りっぽくなるというのも人格変容。また逆に、こやかに丸く変わる人もいます。絶対、丸く変わった方がいい。どうせ老いるなら丸々しく福々しく笑ひ、楽しむのも能力、体力、気力。そつちの方向に行く方がはるかにお得コース。

自分づくりに最適なのは仲間づくり

間づくり。仲間と楽しく元気に。「楽しくなければ元氣になれない。元氣でなければ楽しくない」とあちこちで言っている。相模原の地元で立ち上げた「共同参画市民ス

タデイ21」は専業主婦や教員、弁護士などいろいろなキャリアの女性達が集まっている会。その雑多性が面白い。明るく元氣で社会的地位の高さを鼻にかけてたりしない。自分をつくるために友達と地域活動をし、未来の世代に個人としてではなくその集団として、仲間として何か残していこう。それは私達の次の世代に対する愛情。そしてそれが地域の中でも繋がっていくと信じている。

ライフワークバランス

これは今、世界のキーワード。仕事と生活の調和。介護も長続きするには過剰な愛情を持たない事。男性にとっても男女共同参画社会は非常に大事な事でこれから団塊の世代が地域にくる。地域の中で行動して欲しい。残間里江

未来通信

子さんが「それでいいのか蕎麦打ち男」という本を出し話題になった。そば打ちをしなけりや男じゃないみたいな雰囲気があるが、そば打ちだけでなく、もつと他にもやる事があるのでは。また読売新聞の北村さんが「それでいいのか湯葉食いや女」というコラムの中で、女達は豪華ランチを食って京都へ行って湯葉を食って鎌倉へ行って遊んで。そういうレジャー型、消費型だけの人生でいいのですかと。

未来からの預かりもの

急激な少子高齢化の社会になり、これからは高齢者が活力を生み出し社会の中で役割を果たす時で意識の改革が大切だ。昔の価値観ではなく、未来に向けて学ぶという事が必要。そういう社会を実現していく為にも必要なのは地域の法律で、その意味でも、男女共同参画推進条例というのは非常に大事だと思っている。

相模原市では、条例ができた事によって、役割がきちんと明確化され、進むべきともしびが見えた。学びの中に行動があつて行動の中に学びがある。その循環の中で、行政というものが身近になった。



△100人余が参加した講演会

人々はいろいろな形で元氣になりそれが周囲にいい影響を与えていくと期待する。『子どもは未来からの預かりもの』という言葉が好きである。この大切な預かりものを愛情をもって育て守っていく事が大切ではないか。

参加者の感想

各団体の事例発表で存在と歴史を知り大変良かった。親しみやすい講師で内容がスッと理解できた。楽しく年をとるため、どうしようかと思つた。今後の生き方のヒントを多数いただいた。これからやってくる介護問題の心構えができた。次の子ども達の世代に何を残すか考え元気づけられた。

未来講座スタート.....新たな挑戦でスキルアップ

福祉住環境コーディネーター講座

女性センター未来では、パワーアップ講座「福祉住環境コーディネーター2級」が始まりました。住み慣れた地域や家で暮らし続けたいという高齢者や障害者に、住みやすい住環境整備を行う重要な役割を担っているのが福祉住環境コーディネーターです。

主な仕事は、介護保険制度下での住宅改修に係るケアマネージャーとの連携、福祉施策や福祉・保健サービスなどの情報提供、福祉用具・介護用品から家具までの選択と利用法のアドバイス、バリアフリー住宅への新築・建て替え・リフォームのコーディネートなど。

検定試験があり合格者に資格が授与されます。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけるために、テキストにそつて学習していきます。



受講生のみなさんに受講の動機を伺うと「自分のスキルアップをしたい」「福祉職場で働いているので仕事に生かしたい」「求職中なので資格をとりたい」「親の介護をしているので学んだ知識を介護に活かしていきたい」と意欲的でした。11月に行われる試験の合格を目指して、毎週木曜の夜、学習していきます。

プリザーブドフラワー講座

薬品処理された花を使ってアレンジメントします。材料に用意された花々は、見た目は生花と全く変わらず、手触りもやわらかく、何年もその姿を保つので、長い間飾っておけるそうです。バラや紫陽花を使って、季節感のあるアレンジメントができました。



ピーズアクセサリ講座

講座第1回は「ベネチアンピーズを使った携帯ストラップ」を作りました。細かいピーズを細い糸に通す作業は大変ですが、出来上がった作品を見ると疲れも吹き飛びます。

人権政策課男女共同参画係
電話：0269-62-3111
FAX：0269-62-5990
(内線 371)

E-mail：
jinken@city.iiyama.nagano.jp

いぎいき女性センター未来
飯山市大字飯山 1431
電話・FAX：0269-62-0543

E-mail：
center-mirai@city.iiyama.nagano.jp